**[ 第一回 ]**

**ナレーションA -- 杨雅逸**

**光秀 -- 张昀能**

**信長 -- 廖昀昊**

**蘭丸 -- 马乐**

**足軽１ -- 张昀能**

**足軽２ -- 陈霖杰**

**ナレーションA：**今日、わたくしたちはみんなに一つ物语をあげる、一人英雄ついての物语、彼死ぬ時の物语。

本日、わたくしたちが、皆さま（みなさま）にある物語をいたしましょう。

　　　　　　　　ある英雄の物語です。それは彼が死ぬところの物語です。

**ナレーションA：**昔々から、本能寺のそとに

　　　　　　　　それは、1582年のことです。京都の本能寺で･･･

**光秀：**敵はまえにあり。全軍進め！今日こそ、敵リーダの命を取る！

　　　敵は、本能寺にあり！　我々は、信長の命を取るのだ！　全軍、勧め！

**ナレーションA：**本能寺のなかに

　　　　　　　　そして、本能寺では･･･

**信長：**そとが何が発生しましたか。

　　　蘭丸、騒がしいぞ。何かあったか？

**蘭丸：**信長様、わたくしがいま確認してきます。

　　　信長様！　今、確認してまいります。

**蘭丸：**あ。桔梗の家紋。あれは明智様の軍勢です。

　　　あの桔梗（ききょう）は！　信長様、明智様の軍勢が･･･。

**足軽１：**て。伝令明智丹波守光秀が謀反した。今本能寺が包囲されました。

　　　　で、伝令（でんれい）！　明智様、謀反（むほん）でございます。

　　　　我々（われわれ）は包囲（ほうい）されています。

**信長：**光秀か。きっと失敗されます。

　　　光秀か･･･。　是非もなし。

**足軽２：**て。伝令火、火が起きました。

　　　　信長様、火事でございます。

**蘭丸：**豊臣秀吉様がこの本能寺の中に秘密通路を準備しといた。信長様、ご撤退ください。私が案内する。

信長様、秀吉様（ひでよしさま）が、この本能寺に、秘密の通路を作りました。

　　　その通路にわたくしがご案内いたします。

**蘭丸：**くそう、秘密通路は閉鎖されました。これはまじ窮地に追い込められた。信長様、今ならどうするべきか？

　　　あ･･･。

信長：どうした？　蘭丸。

蘭丸：通路が･･･。塞（ふさ）がれています。

**[ 第二回 ]**

**ナレーションA -- 杨雅逸**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**信長 -- 廖昀昊**

**扔箭者 -- 戴阅顺**

**ナレーションA：**突然に、一本すごく早い弓矢が空を引き裂いて、深々に信長の胸に刺してしまう。

　　　　　　　　その時です。信長の胸に1本の矢が･･･。

**信長：**うあああ、心臓が。。。ん野郎が、ほかに残っている仕様が無いのか。はしの覇道がここまでなんだか。

うっ。

蘭丸：信長様！　お気を確（たし）かに！

**ナレーションA：**だんだん、信長の視線が模糊になってしまった、血が傷から噴射してきた、絶望と悔しさが彼の心に混んでいた、これで、歴史にある一人英雄が倒されてしまいました。

こうして、心臓に刺さった矢（や）は信長の意識を奪（うば）っていきました。

　　　　　　　　そして、その矢で歴史的英雄（れきしてきえいゆう）である信長は命を落（お）としました。

**信長：**ああ、俺がこうやって倒されたんだか？悔しい、悔しいなあ！

　　　是非（ぜひ）もないことであるが…、もう一度、やり直せたら･･･。

**ナレーションA：**須臾の中、信長が少し異変を感じた。

　　　　　　　　そのとき、信長は異変を感じました。

悔しく、やり直したいという信長の気持ちがそうさせたのでしょうか･･･。

**信長：**これは、何の音？あ、そこに微光か。もしかしたら、天国の入り口なんですか、ああ、これで、残念も残っていないよね。。。

　この音は･･･。あそこに、光が見えるぞ。あれは天国の入り口なのだろうか。ああ、俺は本当に死んだのだな･･･。

**ナレーションB：**あんな微光が少しずつおおきくなりました、形がだんだんに見えた。

　　　　　　　　すると、信長が見た光が少しずつ大きくなっていきました。その光は桃の形をしていて、強い力で信長を引きずりこもうとします。

**信長：**なるほど、天国入り口の姿が一つ桃なのか。なあ？桃？なんということだ！あ、だめだ、入られてしまう！いやだ、また死にたくない、助けろ、いやあああああああ！！！

　　　桃？　なぜ桃なのだ。　くそっ、引きずりこまれるぞ。うわあああ！！！

**[ 第三回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**おばあさん -- 樊小楚**

**おじいさん -- 马乐**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**ある人 --戴阅顺**

**ナレーションB：**昔々、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。ある日、おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に出かけました。突然、川の上の方から、大きな桃が流れて来ました。おばあさんはその桃を見て、とても驚きました。

**おばあさん：**あっ、なんておおきなもも！一体どこから流れてきた、食べられるかな、おじいさんと相談して見よう。

ああ、なんて大きな桃でしょう。一体どこから流れてきたのやら…。食べられるかどうかおじいさんに相談してみましょう。

**ナレーションB：**おばあさんはとても大きい力で、すごい時間を掛かって、やっとこのモモを上げて接岸してきました。おばあさんは大きいモモをぼうっとみて、そしてたらいの上で置いて、一生懸命努力したのは家に帰ることを歩きました。

おばあさんは、その大きい桃をたらいに入れて、家へ持って帰りました。

**ナレーションB：**たそがれの時、おじいさんが山の中から帰って来て、たくさんの薪を背負って、喜び勇む言うことが。

夕方、おじいさんが山から帰ってきました。そして・・・

**おじいさん：**ただいま!うわ、それはなんだ!おおきいももなんですか?

　　　　　　ただいま。うわ、その大きい桃はなんじゃ！

**おばあさん：**おかえりなさい。あっ、大きな桃だよ、川の上から流れてきました、初めて発見した時、よく怖かったんだね。でも、すこし観察しておいて、ただ普通の大きい桃なんと想いにした、ところで、美味しそうね、一緒にたべてみようか。

おじいさん、おかえり。この桃は、川の上から流れてきて、おいしそうじゃったから、食べらるかと思って、持って帰ったんじゃ。おじいさん、食べてみよう。

**ナレーションB：**おばあさんは包丁を取り出して、モモを切ることを始めました。でもおばあさんはモモを切開するその時、“わーー!”の泣き声が耳に入りました。モモの中間は1つの健康のかわいい赤ん坊が飛び出してきた、大声の泣くこと。

そう言って、おばあさんは桃を切ろうとしました。すると。中から大きな声で泣く赤ん坊が出てきました。

**おばあさん：**かわいいおとこのこね、え！ちょっと待て！なんということ！ももの中にが人類がいたということか！信じられない、一体どうやって生まれたの？おじいさん、よくみてよ！

なんてかわいい男の子なのじゃ。そして、桃から産（う）まれるとは不思議なこと･･･。

　　　　　　おじいさん、よく見てくださいよ

**おじいさん：**確かに不思議のことなんだよね、山に住んでるの時間で、こういうことみたことがなかったんだ。これは、もしかしたら、もも神なんですか？

ああ、確かに不思議なことじゃ。こんなことは生まれて初めてじゃ。おばあさん、この子はもしかしたら、神様の子かもしれんぞ。桃の神様の子かもしれん。

**おばあさん：**まあ、どうして考えるのも答えを出せない、これは生き物でしょう？じゃ名前がなっかたら、かれんなことになったんでしょう！なんのなまえにしましょうか?

　神様の子でも、何でも、私らの子です。おじいさん、この子の名前をどうしましょう？

**おじいさん：**ももからうまれたなら、ももたろうにしよう。

　　　　　　桃から産まれたから、桃太郎はどうかのう？

**ナレーションB：**おじいさんもおばあさんもよくびっくりしました。二人は、桃太郎を自分の息子と見る。桃太郎は頭脳がよくで活力もあります。おばあさんがいつも桃太郎に団子を作ります。

おじいさんとおばあさんは、とても驚きましたが、2人は桃太郎を大切に育てました。

　　　　　　　　そして、おばあさんは桃太郎に団子をいつも作ってやりました。

**おばあさん：**桃太郎、たくさん食べて、そしてはやく大きくなりなさい。

**ナレーションB：**二人は、桃太郎を大事に育ってました。桃太郎はすぐ大きになりました。優しい青年になりました。そして大変の力を持ちました、例えば、桃太郎が空手で牛を殺すことがだんだんできるのになった。

2人は桃太郎を大切に育て、桃太郎はすくすくと大きくなりました。

　　　　　　　　桃太郎は優しく、空手で牛を殺せるほどの力のある青年に育ちました。

**ナレーションB：**ある夜の中、ある人が来た。桃太郎はまだ寝ていますが。

　　　　　　　　ある夜のことでした。不思議な人物が寝ている桃太郎の所にやって来ました。

**ある人：**桃太郎、桃太郎、起きなさい。

**桃太郎：**お前は何者だ！

**ある人：**私は...いや、今はまだ言えません！でも、私は君に助けてあげる人です。君は運命に選ばれた人です！いまから、君に奥義を教えてあげます。

私の正体は、今はまだ言えません。しかし、私はあなたを助ける人です。桃太郎、あなたは、運命に選ばれた人物です。体術（たいじゅつ）の奥義を教えてさしあげましょう。

**桃太郎：**いいえ、いいえ、いいえ、それはめっちゃ変でしょう？あなたは一体誰なんだ？どうして僕のことが知ってる、ひょっとしたら、あなたは何が説明してくれられる、僕がずっと変な音が聞こえるのことについて？

運命に選ばれた？　いやいや、それは変でしょう。　あなたは一体何者なんですか。私の何を知っているというのですか。あなたは、私にしか聞こえない声について知っているのですか。

**ナレーションB：**そう、桃太郎自分の言う通りだ、桃太郎は生まれた時からずっと変な音が聞こえる、それは人が一人二人がしゃべっている様な声だった。

優しく、力のある青年に育った桃太郎でしたが、実は、桃太郎には悩みがありました。

　　　　　　　　それは、彼が物心（ものごころ）ついた時から聞こえる誰かの声でした。この声は桃太郎だけに聞こえ、おじいさんやおばあさんたちに聞こえない声でした。

**ナレーションB：**桃太郎は迷うのを持ちながら、あの変な「あるひと」と武芸を習った、自分の体が自分の次第で動けずのような、コントロールされてるような、武芸をならった、その結果として、桃太郎はもっと強くなりました。

　　　　　　　　桃太郎はとても悩みましたが、その不思議な人に体術（たいじゅつ）の奥義を習いました。信長は自分の意志ではなく、誰かに操（あやつ）られて動いているように感じました。

　　　　　　　　しかし、桃太郎はその奥義でさらに強くなりました。

**[ 第四回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**村人 -- 张昀能**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**ナレーションB：**そのあと、ある日、港口から一人おじいさんが家に世間話をきてた。

　　　　　　　　ある日のことです。港（みなと）からおじいさんの友人がやってきました。

**村人：**一か月の中に，対岸の島で，妖怪が来た，その妖怪は私たちをいじめるのが好きだった。私たちの家は破壊された，私たちの物は奪われた、みんなもあの妖怪のことを恨みをしてるが、怖っている。だから、頼んぶよ、桃太郎、助けてくれるよ！

少し前から、近くの島に、妖怪が住みついての。その妖怪が我らの家を壊したり、食べ物や酒を取ってしまうのだ。我らはその妖怪を恨んでおるのだが、怖くて何もできない。

　　　お願いだ、桃太郎、おまえのその強さは我らの村まで届いている。どうか、助けてほしいのだ。

**桃太郎：**状況は分かった、だが私がただ一人なんだ、武芸しかない、それは俺にとって危なすぎて、やはりあなたたちは本地軍隊にお願いするよ！

おじさん、わかったよ。でも、私一人では何もできません。お城の殿様に頼んだほうがいいと思うんだ。

**ナレーションB：**でも、桃太郎が村人の可憐な目を注目する時、「きっと、助けてあげる」の気持ちはもう心に決めていました。

しかし、桃太郎がその村人の目を見た時、助けたいという気持ちが強くなってきました。

**桃太郎：**あれ、また、変な声が、え、さっき、俺が、村人を助けたいのか、たすけないのか。記憶が模糊にして始まった。どうしてそんな助けたいのか、この気持ちは本堂に僕自身の意志のかな？

あれ？　またいつもの変な声が聞こえる。俺が、あの人を助けたいのか、助けたくないのか、何か言っている。俺ではない誰かの声が･･･。

**村人：**も一度考えてほしいな、あなたしかできないよ、~~本地軍隊もそうさ。~~

　　　お願いだ、桃太郎、もう一度考え直してくれ。

**桃太郎：**じゃあ、僕がその島へ行って、妖怪を退治しましょう。

　　　　わかりました。俺（僕）がその島に行き、妖怪を退治してあげましょう。

**村人：**よかった、ありがとう、ありがとう、桃太郎~~様~~！！！

**桃太郎：**俺は一体。。。。。助けてあげたくなかったのに！

　　　　　　　　　　　妖怪退治なんかしたくなかったのに！

**おじいさん：**桃太郎、おじいさんが君の年と合わない勇気を喜んでいるだが、心配してるよ。~~あんな妖怪が悪いことをするばっかり~~、そして太郎ちゃんはただ一人男の子だよ。

桃太郎、儂（わし）はお前の勇気をうれしく思うが、心配もしておる。お前は我らのただ一人の子どもなんじゃ。

**おばあさん：**おばあさんが黍団子を作ったわ。いい子だ、これをもって行って、君の力にいい、早く妖怪を倒すのに支援するとして。

さあさあ、いつものお団子を作りました。このお団子を食べれば、どんな妖怪でも倒すことができますよ。気を付けての。

**桃太郎：**安心するよ、私が気を付けてるから。

　　　　ありがとう。おばあさん、おじいさん、行ってきます。

**ナレーションB：**桃太郎は黍団子を手に入れました。村人と別れといた、鬼ヶ島へ出発しました。その途中で。

　　　　　　　　桃太郎はおばあさんが作ってくれた団子を持って、妖怪がいる島へ出発しました。

　　　　　　　　その途中で･･･

**[ 第五回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**玉藻前 -- 樊小楚**

**大和 -- 马乐**

**桃太郎：**何か変だ、いつも誰が俺のことを注目する気が感じする、それに、人の声の様な音が聞こえる。じいさんとばあさんと生活してる時、こういう感じがこんな顕著ではなかった、一人いる頃に、声と注目される感がはっきりされてるね、やはり錯覚ではない。俺のことに何が発生してる！ずっと。。。

　おかしいぞ、なんだか誰かに見られているような気がする。それに、あの声がいつもよりたくさん聞こえる…。こんなことは今までなかった…、いったい俺に何が起きているんだ…

**玉藻前：**あぁ…お腹が減った〜…

　　　　ああ、おなか、すいた～。

**ナレーションB：**桃太郎が自分のことを考える時、正面から一人人間様な生き物が歩きました。

**玉藻前：**おい、あの人類、少し食べ物をくれない？

**桃太郎：**ああ、俺がそんなことはもう忍耐できない、一体誰が喋っているんだ！

**玉藻前：**あたしだよ！

**桃太郎：**おっと、あ、すみませんでした、犬さん、どうして人類の言葉ができますか。

**玉藻前：**犬じゃない。狐ですよ。あたしが神なんだよ！あたしの名前、聞いていなかったの？

**桃太郎：**へえ神様？神という生き物が本当にいるのかな？

**玉藻前：**もちろん、あたしが超一流の神様だ〜

**桃太郎：**は？それでも、あなたはただ自演の神なんでしょう！神というなら、あなたの神の力を見せてくれるのはどうだ？

**玉藻前：**だめだ、今お腹がすいてる、神の力が出せない。

**桃太郎：**じゃ、どうやって俺に信じさせるのか？あなたは神様のこと？

**ナレーションB：**そういっても、桃太郎も彼女のことを認めている、彼女を助けてあげたかった。

**桃太郎：**あなたは何を言っているのかわからないけど,なんかすごい感じです。僕は桃太郎です。

**桃太郎：**え。。ちょっと、一体何か起こってしまった、俺が、彼女のことを認めたくなかった。

**玉藻前：**うん？？？まあいいか、桃太郎、私の腹が減った、一つ黍団子をください！

**桃太郎：**はい、どうぞ。僕は妖怪と戦いにいく、村人をたすけるのとして、僕と一緒に来てくれない？

**玉藻前：**じゃあ、黍団子をもらったから、私も行く。一緒に鬼を退治しましょう。あたしは君のことを守れるよ。あたしの力を無視すれば、チームの全力が大損をするわ！

**桃太郎：**あ、最高！おばあさん作る黍団子を食べて、やる気満々だ!

**玉藻前：**ふん、妖怪を倒す、めっちゃ簡単なことじゃない！

**大和：**おい、その二人、俺も行く！

**桃太郎：**おっと、猿さん、どうして人類の言葉ができますか。

**大和：**ああ。僕は猿じゃあないですよ、神ですよ。私がみんなさんに「ヤマトダケル」と呼ばれます。

**桃太郎：**どういうことだ、自分で神を呼ぶのやつ、もう一回？

**ナレーションB：**そういっても、桃太郎も彼のことを認めている。

**桃太郎：**え、さっき、俺が何か考えているのか。。。。

**桃太郎：**おっと。ヤマトダケルさまか。僕は桃太郎と申します。こちらは玉藻前。

**玉藻前：**さっき我が飢餓を忍耐しきれなくなったの時に、桃太郎は我に黍団子を送ってくれた、そして我があの子を守りながら、一緒に鬼の島へ鬼の退治をするのになった。

**大和：**熱心な桃太郎よ、我にも黍団子一本をくださいますか？そうしたら、我もいくぞ！

**桃太郎：**はい、どうぞ。

**大和：**なんと優しい人間だ、我は貴様たちと一緒に悪を打つするべき！

**[ 第六回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**玉藻前 -- 樊小楚**

**大和 -- 马乐**

**八咫烏 --戴阅顺**

**桃太郎：**へえ！どしてその烏がみっつ爪を持っているのか！もしかして、そちらも神様なんですか。

**八咫烏：**人間？そして二つ雑魚神？ああ、あなたの直感は、非常に正確です、少年。そう、私は首上に三つ神器の一つ、八咫鏡が持ってる八咫烏ではあります。太阳神天照に派遣されたんで、現世に来ました。大御命の使者であり、太陽の象徴であり。

**桃太郎：**いいえいいえいいえ、変すぎなんでしょう、さっきからずっと変なやつとあうこと、神様が固執して僕のことを助けてあげるように。

**ナレーションB：**そういっても

**桃太郎：**わあ、すごいそうです！じゃ、あなたの使命は？

**八咫烏：**我は亡霊をさいどするの使者だ、人々は死んだら仏になること、でもそれは普通な人間のしぬことだけだ、仏になれないやつが人間に回ってるの怨霊になる、そういう怨霊をさいどするのはわれの仕事だ、そういっても、けっきょくあんなやつを永遠になくなるのにするわけだ。うははははは！！！われこそ、生と死の限界の管理者、いつも死ぬことと生きてる。このように死ぬことはさえあれば、われが消えない。

**桃太郎：**いいや、意味わかるだけど、不思議すぎ。。。。。あ。。。すごい！私たちはちょうど村人をいじめてるの妖怪と戦っていくの、もしあなたは私たちに力をかしてくれるなら、きっと勝利にするよ！

**八咫烏：**生と死をコントロールしてる神としての私にあんな願いをだすこと、不思議な、人間！今私が少し指を動けば、貴様たち三人も瞬間に亡くなることをできる、次の発言を注意するぞ。

**桃太郎：**では、失れいたしました。

**八咫烏：**ま。。まって、そんな早く諦めること、やはり人間だ！

**八咫烏：**な。。。おい、まって、おい、待ってていってるじゃないか！

**八咫烏：**にん。。人間、力を貸すことはいいんけれども、一つ要求がある！おれに！！！！

**桃太郎：**私たちに何をさせるつもりだ！？

**八咫烏：**俺に食品をくれ、千年の中に何もたべていなかったんだ！神としていい待遇を持つと言われたのに！

**桃太郎：**はいはい、こっちが黍団子がありますよ、体力としてあげる！

**八咫烏：**うわ、うまい、なにこれ、人間の食ものか、うわ！！

**八咫烏：**ああ、満腹にしといたら、すごくやれますね！

**桃太郎：**じゃ、つづいて行こうか！

玉藻前&大和&**八咫烏：**よい！

**ナレーションB：**八咫烏も、桃太郎の仲間になりました。

**[ 第七回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**鬼B -- 张昀能**

**鬼A -- 杨雅逸**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**玉藻前 -- 樊小楚**

**大和 -- 马乐**

**八咫烏 --戴阅顺**

**ナレーションB：**皆さんは、船からおりて、岩の上を歩いて行きました。おにの城の大きな鉄の門の前まで来ました。

**桃太郎：**進め！勝利を取れ！！

**皆：**はっ！

**ナレーションB：**おしろの中ではおにたちがお酒をのんだり、ごちそうを食べたり、歌を歌ったり、おどりをおどったり、おおさわぎをしていました。その時、桃太郎は城の中に飛び込みました。

**鬼A：**わ、助けてくれ、鬼がいる！

**鬼B：**な。。何、貴様！

**鬼A：**貴様たちは何者なんだ！

**鬼B：**てめえ、びっくりされた！

**鬼A：**どうして飛んでくるの、ドアがしまっていないのに！

**八咫烏：**ち、ただ人間に回ってる普通怨霊と高等怨霊が、貴様たちを殺すことは毎日の食事をするような簡単！さっさと消えろ！

**桃太郎：**僕は桃太郎だ。日本からの桃太郎だ。僕なら、空手で牛を殺すこともできる、そういう程度の力のことがわかる？お前ら、覚悟しろう。

**鬼A：**ふざけんな！

**鬼B：**あんな悪魔様なものから消えろて言われたら、人間の言葉なんで恐れるのをするわけないだろう！

**大和：**さって、宴会が始まりだ。鬼たちよ、俺の剣道を拝見しながら、死んでくれ！はっ！大和剣！

**玉藻前：**軒轅陵墓。冥府より尽きることなく。帰し帰すは黄泉の国。まろびくだりて伊賦夜坂。八雷神、出でませ！

**八咫烏：**俺なら攻撃の発動は瞬発だから、いうべきことがない！音バースト！

鬼：ああああああああああああ、神三人の攻撃が、ごめんなさい、村人から奪った宝物は全て返しますから。もう悪い事やしないんだ。

**[ 第八回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**鬼リーダ -- 张昀能**

**鬼A -- 杨雅逸**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**玉藻前 -- 樊小楚**

**大和 -- 马乐**

**八咫烏 --戴阅顺**

**ナレーションB：**この時、鬼リーダがしろの外から帰ってきた。お城の中の惨状を見ていながら、大きい声で叫ぶこと。

**鬼リーダ：**ちくしょう、お前ら、なぜ動揺されたんだ。進め！進め！動揺するな！

**鬼リーダ：**お前ら！戦え！動揺するな！敵はただ４人です。戦え！戦え！！撤退するな！！撤退するな！

**鬼リーダ：**ち、お前ら全ては雑魚だ、使えるやつ一つもない。ちくしょう。ならば、お前と一緒に殲滅してあげましょう。覚悟しろ！

**鬼リーダ：**鬼クラス絶技、闇振動波、これこそ鬼間の中にただ一人しかできないぜつぎだ、命中されれば、生き物や死ぬ物やの精気でさえあれば、全部俺に奪われてくる、死ぬ時で全身究極な痛さを受けらなければならないんだ、さあ、ごゆっくり試食してください。

**八咫烏：**おい、貴様、この芸俺もできるよ、あんたは一人じゃないんだよ！

**ナレーションB：**瞬間に、一本言葉で描写できない漆黒なエネルギー振動波が鬼たちに衝撃していく、須臾の中に鬼たちがさしもないでなくなった、空間に残っているのがただあるようでもありないようでもある鬼たちの凄惨的な叫び声。

**鬼リーダ：**ち、雑魚は雑魚だった、利用の価値ではなかった、お前らも同じだ。チームリーダ様なやつはあなたでしょう、桃太郎。じゃ、君の血から飲むよ。

**鬼リーダ：**ち、少し神の力を感じてるね、やはり貴様は普通な人間ではない、じゃこれはどうだ？！闇、振動波！！！

**鬼リーダ：**生き物は生き物だ、殺されるなら死ぬ！お前もう同じだ、だ。。。。え？

**桃太郎：**あ。。。ここはどこだ、そうだ、俺は弓矢で殺されたんだ、本能寺、え、ここはどこだ。。

**ナレーションB：**しかし、桃太郎の武芸程度は高すぎ、鬼リーダはすぐたおされたんだ。

**桃太郎：**え、俺はもう生きている？闇振動波のに、でも、体が変じゃないなら、覚悟してくれ！

**鬼リーダ：**お前な、本堂に何もわからないんですね、この世界のことついて、ね、君がこの世界、何が変な様子をかんじているんかい？

**桃太郎：**な。。どうして君がわかる、貴様いったい何者だ、貴様一体何がわかっているんだ？さっさといえ！

**ナレーションB：**しかし、その時、鬼リーダはもう、なくなってしまった。

**桃太郎：**え、死んだ、俺の攻撃なら死ぬことには。。。あ。。

**ナレーションB：**その後、桃太郎たちはすぐ村人の通ろに帰りました。

**桃太郎：**じゃ、討伐が終了、帰ろうか！

**ナレーションB：**勝利を手に入れた桃太郎たちは、とても興奮にしていた。

**[ 第九回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**ナレーションA -- 杨雅逸**

**村人 -- 张昀能**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**小鬼 -- 马乐**

**大和：**おい！おい！人間たちよ、食べ物をたくさん連れて！

**村人：**桃太郎様、あなたはわたくしたちの英雄なんだ！ももたろうさま！あなたのお掛けて、奪われてた財物が全て戻りました、わたくしたちはもう一度から居場所を建立することができるのになるんだよ。本堂にありがと！

**八咫烏：**ち

**玉藻前：**うん、普通な人間が私たちのことが見えないかな！

**大和：**じゃ、桃太郎はふつうな人間じゃないってですよね。

**桃太郎：**そういっても、あの鬼リーダも生きてる時の言葉はやはり。。。

**ナレーションA：**その時、みんなが注意していなかったところから、残られた小さい鬼一匹が桃太郎にスプリントしたんだ。

小鬼：にやあああああ！覚悟！

**ナレーションA：**脇差が桃太郎の心臓に入った、血が不断的跳ねて出ていた、究極な痛さの後に、少しずつ、桃太郎が何を思い出した。

**桃太郎：**こういう景色、こういう感じ、どこか、何時か、体験したんだ。あれ、記憶が模糊にして。。。あ、声が、注目されるの感じがもう一度。。。俺は誰だ、一体誰だ、そうだ、おれは戦場中だった、俺は敵に飛んできた弓矢で刺されたんだ、俺が、俺がもう死んだんだ。

**[ 第十回 ]**

**ナレーションB -- 陈霖杰**

**ナレーションA -- 杨雅逸**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**ナレーションB：**何がしているんだ！

**ナレーションB：**どうしてこの結局を壊して、彼を殺したの！私たちの信長さんはこれから覇業をもう一度建てられることじゃないのか！

**ナレーションA：**そういっても、ちゃんと考えてくれるよ、こういう物语は本堂にいいのか、実はあなたの心にもわかっているんでしょう、彼が桃太郎になったことからの物语は変なことになったんでしょう！信長は本能寺で死ぬことは彼の本体に会って、正しい結局なんでしょう？

**ナレーションB：**貴様は何がわかる！

**桃太郎：**話すの声が、いつも人が喋っているの声が一体何なんだ！あんたたち、一体誰だ？え、ナレーション？？？

**桃太郎：**あ、あなたたちも、どこから出た！さっきの小さい鬼はどこか？僕の仲間たちは？村人は？

**桃太郎：**どうしてナレーションがここにいる、死んだ後に出た演劇の幻想なのか？信長として死ぬ時はももを見てることだった、今回桃太郎としては演劇ですか？

**ナレーションB：**あなた、もしかしたら、わたくしたちのことが見えますか？

**桃太郎：**ええ、はっきり見てるんだよ、「ナレーション」という字が書いてる服が着るおかしい人が二人があって、喋っているのことが。

**ナレーションA：**うん。。。貴様の仕業、時空操作の中に彼の記憶がすっかり抹消できなかったのことだ。

**桃太郎：**あなたたちはさっきから何が言ってるんだ？というか、ここは俺の幻想しかない、自分の幻想して出た人物と話すことは変なんだね！

**ナレーションA：**これは幻想じゃない！見てるナレーション二人、今まで聞いた声、すべては幻想じゃない！うん。。ここまでなら、全部教えてあげるよ。

**桃太郎：**幻想じゃないって、どうやって証明するの、方法じゃないでしょ！

**ナレーションA：**まずは、君は信長だ、本能寺の中に敵に弓矢で殺されたんだ、違いますか？

**桃太郎：**それは。。

**ナレーションA：**その後、大きいなももを見て、全ての記憶がなくして、桃太郎として今まで生きている、違いますか？

**桃太郎：**どうし僕のことが知ってる、でも、振り返って見れば、自分が本当に信長として生きていたのか、いきていなかったのか、良く分からないんだ。あれは真な痛さ、はっきり覚えている経歴だ、でも、こちの桃太郎としての経歴も。。。

**ナレーションA：**その二つ経歴はいずれも本物だった、君は信長として生きていて、敵に殺されたんで、そして、桃太郎として生きていた、これこそ君が歩いてきたの人生道でした。

**ナレーションB：**おい、Aさん、ここまでだ。

**桃太郎：**何よ、やはり俺の幻想ですね、人が第二回の人生をすることが、冗談しかないよ。

**ナレーションA：**いいえ、それは事実だ、わたくしたちは未来の人類、技術手段でこういう現象を作ったんだ。

**桃太郎：**ええ？

**ナレーションA：**遥遠な未来から、人類は人毎に一つ世界の操作権が持っている、娯楽として自分の意志であの中央宇宙から分配された世界を操作することができる。つまり、君は君自身として生きている時は生き物ではない、ただ私たち作った物语や演劇の中にコントロールされている人形だった。

**ナレーションB：**いいだろ！Aさん黙って！

**桃太郎：**な。。。人形って。

**ナレーションA：**そうだ、私たちとしては人形。でも、君はこの状態で、つまり、わたくしたちと喋っている時は自分の意志が持ってる、それは、しばらく作られたの世界と主世界のがぺいとして引き出すの現象だ。

**桃太郎：**でも桃太郎としては人形だって、信長としても人形だって。。。

**ナレーションA：**じゃ、次は理由。どうして私たちはあなたの世界をつくったんでしょう。

**ナレーションA：**それは、私たちが歴史でいた本物の信長のことが心から好きなんだから。

**ナレーションB：**A、ここまで教えたら、俺の物语が。。。

**ナレーションA：**だから、信長の世界時空もう一度演劇としてしたい、それは君が生まれたの理由だった。

**桃太郎：**僕は完全に、生まれた頃から。。。。

**ナレーションA：**でもその途中で、つまり、君が敵に弓矢で刺されたときから、わたしの友生命体Ｂが、あんな結局がほしくなくなった。彼が桃太郎の世界をつくって、第二回の命を君にあげた。でも、Bが「信長の記憶が全部抹消することやしない」って言ってた、それは彼が「人の記憶がすべてなったなら、違い人になる」と思っていたから、君が信長として生きるときの筋肉記憶や価値観や世界観や人生観などの重要な記憶が全部保留したんだ。これこそ、君のこと、君の居場所のことの真実だ。

**桃太郎：**しんじられない。。。。

**ナレーションB：**Aさん、黙ってって言ってるじゃないか！

**ナレーションA：**君のいた二つ世界は全て創造物、君はただ人形だ！

**桃太郎：**いいえ、違う、俺が生きている意志だ、僕は信長だ、僕は桃太郎だ、僕は本物だ。

**ナレーションA：**だから、わたくしたちとして。。。。

**ナレーションB：**僕はそう信じてた、あなたは本物だ。歴史を勉強してた時はいつも君のことが好きだった、尊敬していた、私としては英雄だった。だから、世界操作権を持ってきたときは信長の世界を作ろうと思ってた。そして、作ったの君が本物として待遇したかった。だから、弓矢で殺されるのことが嫌いだ。桃太郎としての君はすごい力をもって、色々な仲間ができて、熱心して、村人をたくさんたすげて、きっと最後の最後に、新しい、すごい国を作られるって思っていた。なぜなら、あなたは信長だ！その信長だ！敵に弓矢で殺されるなんて、信長はこんな簡単に死ぬ人じゃない。わたしはそれを認めない。だから、第二回の命をあげたんだ。君の王の姿を見るために。

**桃太郎：**そうか。

**ナレーションA：**あなたは本当にそう思っているんですか？それはあなたの本心ですか？ふざけるな！彼が本物？いつか彼は自分自身で選択をしたの？ないよね！全てあなたの操作だったよね！すごい力？それはあなたの制定なんでしょう！

**ナレーションB：**あ！そうだ、わたしたちはあの世界の神なんですから、悲傷だ、仕方がないで、ただの見ることはできない、操作は必要だ。でも、本堂に彼の未来が見たい、王の姿がみたいんですから、彼に第二回の命をあげたんだ、彼に英雄になる機会をあげたんだ。

**桃太郎：**ちょっと待って、神か？人々の運命を決めるの神なんか？それは最高の体験なんでしょう！ああ、そうだ、私もそう思うんだ、弓矢で殺された結局は最低だった、も一度生きるの機会がほしい。でもね、人が殺されたなら、死ぬ、死ぬことがさえあれば、命の価値がある、そうじゃない？一度一度の振り返って、直して、そして、手に入れたの勝利は本当の勝利なんですか？それはただ経験、「生きるのこと」といわれられない。命はこと毎に一回しか体験できないのこと、それこそ命だ！

**ナレーションB：**でもあなた！もう一度命を手に入れたくないか？もう一度君の覇業を実現にするの機会がほしたくないか？わたしたちの物语にはこういうことが全部できるんだ、これから続けて行けば、きっと！

**桃太郎：**これでいい。人生にはいつもたくさん願いがあるんだけれども、かなえない夢想こそ、いつも素晴らしい夢想なんでしょう。ま、いいんだ、私はこれから死ぬべきだ。

**ナレーションA：**なるほど、こういう覚悟の次第、君が人々に英雄で呼ばれてたんだろう。なら、さ、そろそろいこうか！

**ナレーションB：**なるほど、それは英雄の本心か、命の本当の価値か、私、確かに悪いことをしたんだ。でも、現在私がわかりました、大好きな信長、さようなら！

**ナレーションA：**準備はいい？

**桃太郎：**いつでもOkay。

**ナレーションA：**あんな微光が少しずつおおきくなりました、桃太郎は過去にいくんだ。

**[ 第十一回 ]**

**ナレーションA -- 杨雅逸**

**桃太郎 -- 廖昀昊**

**村人 -- 张昀能**

**玉藻前 -- 樊小楚**

**大和 -- 马乐**

**八咫烏 --戴阅顺**

**ナレーションA：**鬼のひしひし握ってる脇差が空気を引き裂いてる、銃の中から音速で飛んで出たの銃弾の様な、ぶかぶかに桃太郎の肉体に埋めてた、血が裂かれた皮膚から跳ねて出ていた、空間にまき散らすルビーのような。

**桃太郎：**やはり痛い、しかし、それでいい、でも私の世界が創造物なんて、本堂に不思議だな。

**玉藻前：**桃太郎様！

小鬼：うああああああああ！

**村人：**桃太郎様、あなたは、私たちの英雄なんだ、ありがとう。。。。

**八咫烏：**しっかりしろ！桃太郎さま！残っている団子が俺にくれるか、おい、死ぬな、答えろ！

**大和：**桃太郎様、僕はもいい食べ物をたくさん食べだい、しっかりしろ！桃太郎さま！

**桃太郎：**ま、この结局、悪くない。いい演劇だ。